

小型囲いわなによる ニホンジカ捕獲マニュアル



四国森林管理局 森林技術・支援センター

平成 28 年 12 月作成

【本マニュアルについて】

四国地域では、ニホンジカ(以下「シカ」という)の個体数の増大及び分布域の拡大に伴い、シカによる農林業・自然植生への被害が深刻化しています。

このため、四国森林管理局では、これまでの植栽木や希少な自然植生などの保護対策に加え、抜本的対策である捕獲にも取り組んでいるところです。

森林技術・支援センターにおいては、H22年度よりシカ捕獲に関する試験を行いながら、農林業者への普及を目的としたわなの開発に取り組んできました。

わなの開発目標は、技術・経験を必要とせず、免許取得の要らない「囲いわな」の、①軽量化：120 kg以下(軽四トラックに積載できる程度)、②低コスト化：市販品価格の1/2以下(50千円程度)、③容易な組立・解体(10～15分程度)と定め、改良を重ねて延べ8タイプを試作した上で、目標をクリアし強度も十分に使い勝手もよい**タイプ7・タイプ8**(下図参照)を実用・普及対象としています。

本マニュアルは、その中で得たシカ捕獲に関する情報や効果的な捕獲手法などについて取り纏めたものであり、小型囲いわなによる捕獲の参考にして頂ければ幸いです。

【小型囲いわなの紹介】



タイプ7

- ・重量: 102kg
- ・制作費: 59,000円(税抜き)
- ・設置時間: 10分(2人で)
- ・移動にあたっては解体必要
1トントラックであれば組み立てたまま移動可能

※制作費は、H28.4現在価格であり、変動する場合があります



タイプ8

- ・重量: 58kg
- ・制作費: 49,000円(税抜き)
- ・設置時間: 5分(2人で)
- ・タイプ7をさらに小型化
- ・軽量化により組み立てたまま軽四トラックで移動可能

※制作費は、H28.4現在価格であり、変動する場合があります



囲いわな発注先：株式会社 ヤマサ
〒781-8125
高知市五台山4994
TEL088-883-4211・FAX088-883-7851

目 次

1. シカの生態・繁殖について・・・・・・・・・・ p 1
2. 四国地域の生息状況・・・・・・・・・・ p 1～2
3. 捕獲試験参考データ・・・・・・・・・・ p 3
4. 小型囲いわなの設置について・・・・・・・・・・ p 4～6
 - 設置場所の選び方
 - 設置
 - わなの作動
 - 誘引餌の撒き方
 - 移動のタイミング
 - 入口まで来ているが入らないシカの対策例
5. 注意事項及び捕獲のマナー・・・・・・・・・・ p 7



1. シカの生態・繁殖について

□生態

- ・「夏毛」と「冬毛」があり、角はオスだけで春に脱落し新しく生えかわる
- ・草食動物であり、ササ・草本類・樹皮・枝・落葉・農作物など、様々な餌を食べ、季節や地域ごとに食べる餌の種類が異なる
また、その地域に好物の餌が無くなっても、以前までは食べなかった餌を食べるようになる
- ・シカは牛と同じく胃が四つある反すう動物

□繁殖

- ・一夫多妻であり、高位のオスを除去しても次位のオスが代替える→妊娠率に影響しないとされる
- ・メスは生後約1年半で成熟し、交尾期は10月をピークに2ヶ月ほどであり、約7ヶ月の妊娠期間を経て、5～7月に1頭出産する（双子はほとんど無い）
- ・メスは毎年妊娠するといわれており、捕獲しないと年率約20%で増加し、4～5年で個体数は倍増する
- ・平均寿命はオス4～6歳、メス6～8歳。野生シカの最長寿命はオス14歳、メス18歳という記録がある

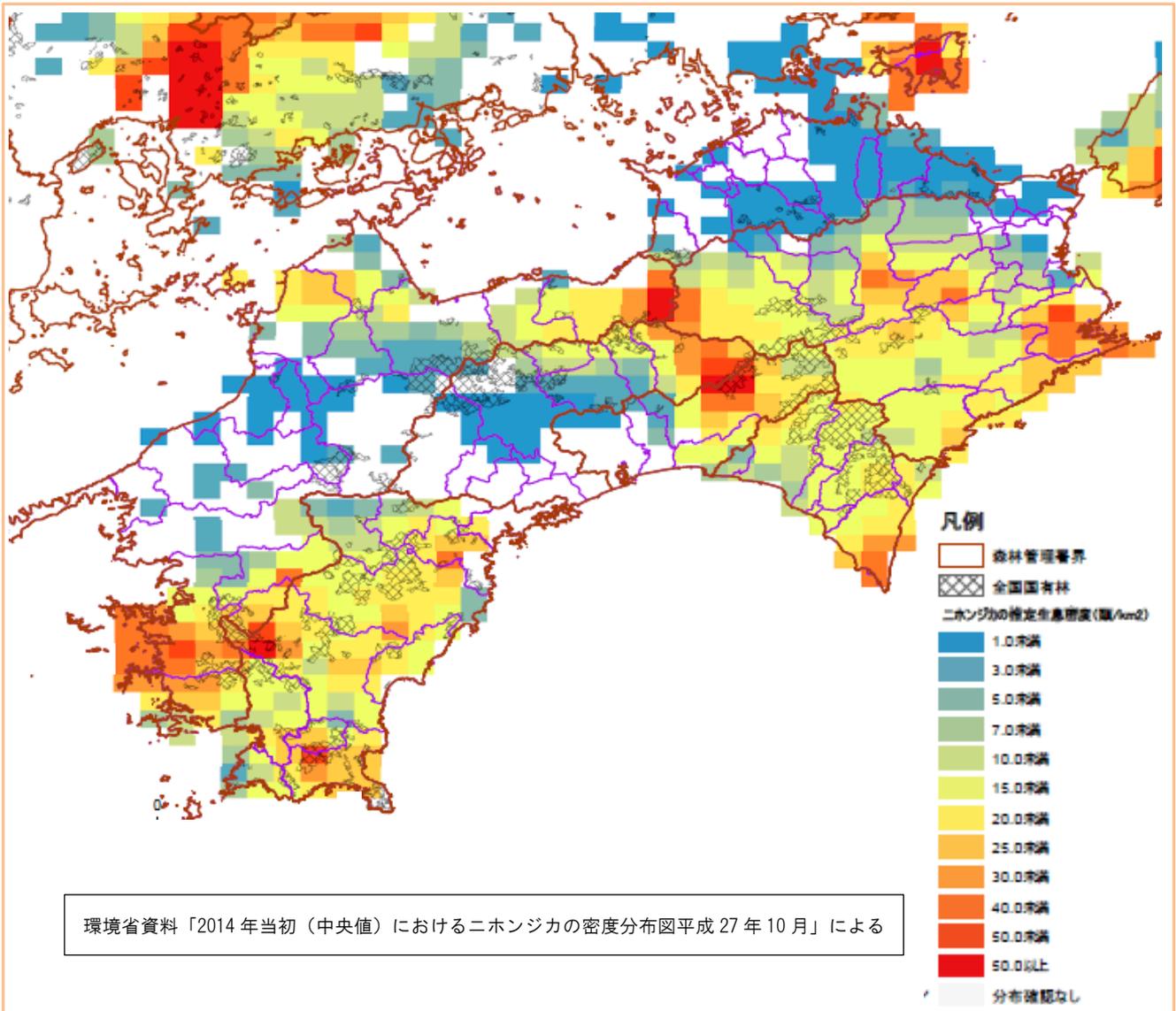
2. 四国地域の生息状況

□四国のニホンジカ生息状況（県別推定生息頭数・適正生息頭数）

高知県の推定生息頭数は 約 70,000 頭	適正生息頭数 9,200 頭
愛媛県の推定生息頭数は 約 29,000 頭	適正生息頭数 8,000 頭
徳島県の推定生息頭数は 約 44,800 頭	適正生息頭数 ー
香川県の推定生息頭数は本土約 270 頭 小豆島約 3,830 頭	適正生息頭数は本土現状維持 小豆島 500 頭

推定生息頭数は、「環境省 甚大な被害を及ぼしている鳥獣の生息状況等緊急調査事業（平成26(2014)年度）ニホンジカの個体数推定及び将来予測の結果について」による
適正生息頭数は、高知県：高知県第二種特定鳥獣（ニホンジカ）管理計画 平成27年5月
愛媛県：愛媛県ニホンジカ適正管理計画（特定鳥獣保護管理計画）平成24年3月
徳島県：徳島県ニホンジカ適正管理計画書 平成27年5月
「徳島県は適正頭数はなく、適正生息密度を定めている」
香川県：ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画 平成27年5月 による

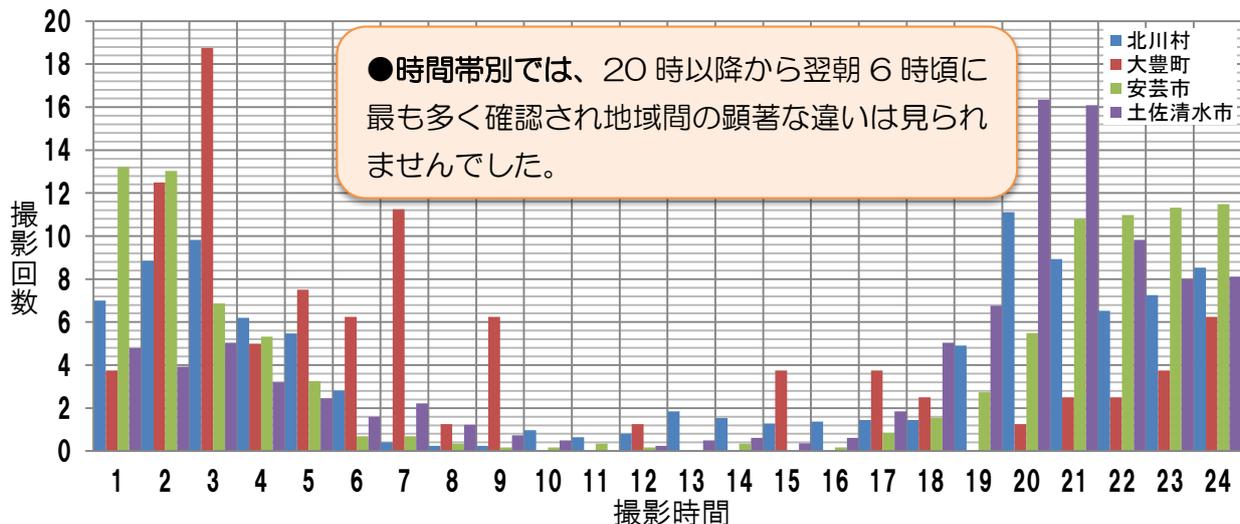
四国のニホンジカ生息分布図



3. 捕獲試験参考データ

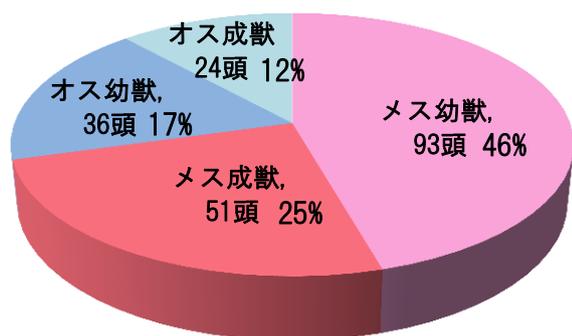
□ 時間帯別出現状況

高知県内東部・中部・西部の国有林に、囲いわなと併設したセンサーカメラによる撮影結果



□ 個体別捕獲状況

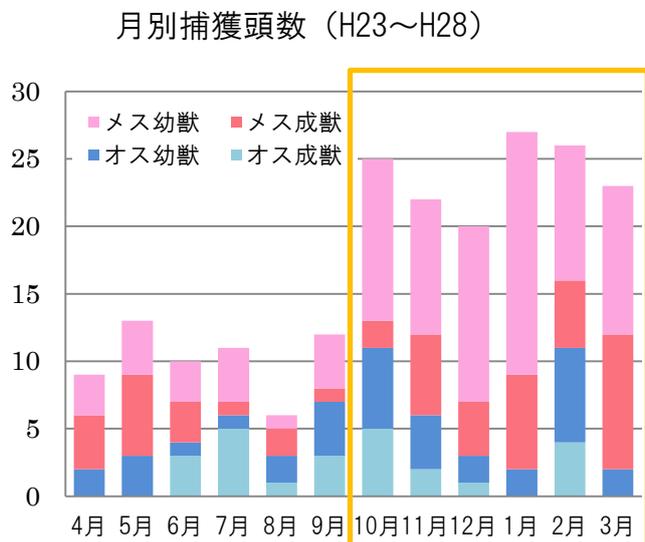
H23.11~H28.10の技術・支援センターによる捕獲試験結果(204頭)



- 個体別にみると、若い個体(20 kg以下)の捕獲が63%と多く、若い個体は警戒心が薄いためと推察されます。
- 性別でみると、メスの捕獲が71%と多い傾向にあり、活動範囲がオスに比べ狭く、子育てをしていることも一因と推察されます。

□ 月別捕獲状況

H23.11~H28.10の技術・支援センターによる捕獲試験結果(204頭)



- 月別捕獲頭数では、春~夏場の4月~9月(少ない)と、秋から冬場10月~3月(多い)との間で、大きな差がある結果となっています。春~夏場は出産時期と重なりメスの警戒心が高くなると共に食糧が豊富にあるため捕獲数が少ない。一方、秋期は、子ジカの親離れや、繁殖期と重なり活動が活発となること、冬期の食糧の減少などにより捕獲数が多くなると推察されます。

4. 小型罠いわなの設置について

□設置場所の選び方

• 手順1：流水のある林道脇の広い部分や土捨て場、谷治いの平坦部、傾斜の緩やかな林内など、罠いわなが安定して設置できる箇所を選びましょう。

• 手順2：新しく濃いシカ道や足跡、糞などで、シカが出現している痕跡の多い箇所を選定して、わな設置の候補地としましょう。

□参考：夏は谷治いの涼しい所、冬は尾根の日が当たり暖かい所に出現している痕跡もみられたことから、候補地選定の参考にして下さい。

• 手順3：設置候補地に誘引餌を置き誘引しましょう。

□有効な種類：シカ捕獲を実施している署へのアンケートの結果、ハイキューブ、米ぬか団子、ハイキューブ入り米ぬか団子、鉋塩など（センターでは主にハイキューブを使用）

※鉋塩・米ぬかはイノシシなども誘引しますので、注意してください。

□注意点：なお、くず野菜、菜の花や柚子の葉なども好物のようですが、当該地域で栽培している農作物は、農業生産者に迷惑をかけることにつながるため、使用しないでください。

• 手順4：次に来たとき、置いていた餌をシカが食べていることを確認できれば、罠いわなを設置しましょう。



シカの足跡

シカの足跡

イシツの足跡



※イシツの副蹄は、深く踏み込んだ場合でないと残りません

シカの糞

ウサギの糞



※シカの糞はウサギの糞に比べ俵型です。



ハイキューブ

ハイキューブとは、干し草を角形に整形固形化した草食動物の飼料
農協などで購入できます。



ハイキューブ入り米ぬか団子

□設置

- 設置の際は2人以上で行い、ケガをしないよう注意してください。
- センター開発わなの組立て方法については、「囲いわなの設置マニュアル」を参考にしてください。

□参考1：上面のネズミ返しが無い前後を飛び越えて逃げた例があったため、センターでは上面の前後に木の棒を差込み固定しています。

□参考2：センサーカメラ（3万円程度）を併用すれば、わなへの寄り付き方や、反応を逐一確認できるため、各個体の動向に応じた効果的な対策が検討できます。

注意点：設置後は、捕獲許可証をわなの近くに表示しましょう。



□わなの作動

- 作動は、トラップを仕掛け、落とし扉の固定及びトラップのストッパーを解除してください。
- 動作の確認については、スムーズかつ安全に作動するのか、必ず確認してください。

□参考：けり糸の設置箇所が低すぎると、ウサギなどの小動物に反応するので、センター開発わなは、写真黄色点線のとおり、後面から3つ目の位置で、側面の下から2段目（約30cm）の高さに設置しています。



□誘引餌の撒き方

- ハイキューブの大きさは、3cm角位にし、囲いわなの入口に5個位置き、中にけり糸まで5～6個、けり糸より奥に10個位置きましょう。

- 週に2～3回の見回りを行い、カビが生えたり形が崩れたりしている餌は、新鮮なものと取り替えましょう。



□移動のタイミング

- わなを仕掛けて1頭目の捕獲に要した期間を調査した結果、7日までに53%、14日までに80%の捕獲となっていることから、捕獲できなくても2週間程度は設置することとし、それ以降は、わなにシカが寄りつかない場合(採餌状況やセンサーカメラで確認する)には、捕獲の可能性が低いため、わなの移動を検討しましょう。
- 1頭捕獲したわなで2頭目の捕獲に要した期間を調査した結果、7日までに35%、14日までに52%の捕獲となっていることから、1頭捕獲後2週間程度わなにシカが寄りつかない場合は、わなの移動を検討しましょう(2頭目以降の捕獲も同様)。

□参考：ウサギが寄りつくときシカが来なくなる場合がありますので、箇所の変更を検討してください。10m程度移動させただけで、捕獲した例もあります。



ウサギがヘイキューブを食べた跡
(シカはきれいに残さず食べる)

□入口まで来ているが入らないシカの対策例



- 何回餌をまいても、入口付近の餌は食べますが、警戒心が強いシカは、危険を冒してまで囲いわなの中へまで入ろうとしない様子が見られることから、対策として、入口へ「くくりわな」を設置する方法があります。(一般の方は、くくりわなでの捕獲は、免許の取得が必要です。)
- 囲いわなに近づく場合、囲いわなが壁となり入り口側一方向から近づいてくるためワナを仕掛けるポイントが定めやすい。
- 設置箇所については、入口付近の足跡があるところ、または、前足を置きそうなところを選んでください。
- 囲いわな設置箇所周辺に、くくりわなのワイヤーを固定する樹木がない場合は、囲いわな本体に固定することも可能です。この場合、囲いわなは地面に確実に固定してください。

5. 注意事項及び捕獲のマナー

□ 注意事項

- 野生動物の捕獲には許可が必要です。
このマニュアルは、法令に基づいた捕獲許可を受けた方を対象に作成しています。
法令やマナーを守って、安全に捕獲を行ってください。
- わなの特徴をよく知り、環境や状況にあったわなを効果的に配置しましょう。

□ 捕獲のマナー

- 捕獲後の殺処分は迅速に対応してください。長時間の放置は、逃げられたり事故の原因となる恐れがあります。
また、捕獲した個体の放置は原則として禁止されており、その全量を持ち帰るか、もしくは適切に埋設処理をしなければなりません。
- 餌のやり過ぎは、餌が腐敗し悪臭や害虫の発生が考えられますので注意しましょう。

□ 錯誤捕獲の対応

- カモシカ・ツキノワグマなど、保護されている動物を誤って捕獲した場合は、原則その場で放すこととなりますが、ツキノワグマなど、わなに近づくことが危険と思われる場合は、（イノシシの子供の場合、近くに親がいることがあるので注意）わなに近づかないで、捕獲箇所の市町村に連絡してください。

□ 参考

- 農林業者が自らの事業被害を防止する目的で、「囲いわな」を使用し、シカ・イノシシ等の狩猟鳥獣を捕獲する場合は免許を取得しなくても設置・捕獲が可能です。（【鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律】第2条及び第11条1項及び同2項イ・同施行規則第2条1項3号）
- 狩猟期間外の有害鳥獣捕獲は、捕獲箇所の市町村長への捕獲許可申請が必要です。
なお、申請手続きなどは、捕獲箇所の市町村で確認してください。
（四国4県においては、市町村に許可権限を委譲している。）